

品目:イチゴ / 葉脈に沿って赤い斑点(苗・再現試験)



品種:あまおう

時期:2005.7

Kを含まない培養液を施用し、発生させた。

葉の無機成分量

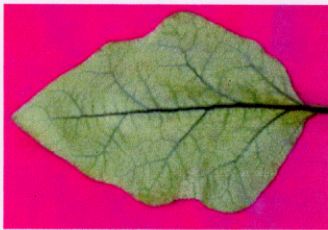
	P	K	Ca	Mg	Fe	Mn	Zn
	(%)				(ppm)		
Cont	0.44	2.45	1.13	0.49	52	87	55
K欠	0.49	1.21	1.50	0.70	70	98	53

培養液:cont N-P-K-Ca-Mg 5-1.6-2-2.5-2 (me/L)
 K欠 contからKを除外
 いずれの区も B, Mn, Feを微量含む

処理開始:2005.5月下旬. 終了(サンプリング):2005.7.7



品目:ナス / 中位葉を中心に葉脈間の退色, 茶褐色の斑点, 症状が進むと落葉



品種:筑陽

発生時期:2002.6

原因:土壌のアルカリ化によるMnの欠乏症?

対応策:ECは高くはないので, 窒素の施用量を増やし土壌中の硝酸態窒素量を増やすことにより, pHを下げる。

また, 硫酸など副成分として硫酸を有する肥料を施用しpHを下げる。

(ただし厳寒期にはアンモニア態窒素は硝酸態窒素に変化しないため、硫酸は不適)

葉の無機成分量

農家		P	K	Ca	Mg	Fe	Mn	Zn
		(%)				(ppm)		
A	障害	0.37	2.94	5.77	0.49	199	11	29
A	正常	0.44	4.65	3.80	0.39	160	28	26
B	正常	0.42	2.27	4.99	0.94	228	43	30
C	正常	0.50	4.34	3.99	0.43	196	48	31

補足:Mn欠乏が発生する原因には, 下記が挙げられる。
 ①土壌のpHが高いため, 土壌中のMnが不溶化している。
 ②土壌中のMn含有量が少ない。
 ③他の元素との拮抗作用により, 吸収できない。

土壌の化学性

pH	EC(mS/cm)
7.4	0.1